

障害者施設へ ピンクリボン

福岡の医師、乳がん検診車

障害を持つ女性が乳がん検診を受ける機会を増やそうと、専用車で障害者施設に向く取り組みが福岡県内でスタートした。検診は福岡市の乳腺外科専門医が無償で実施。活動費はいとこが製造・販売するマスクの収益の一部を充てている。街中の診療所などでの受診は付き添いが必要となるが多いため、関係者からは「移動検診はありがたい」との声が上がっている。

無償実施「落ち着き受診」歓迎

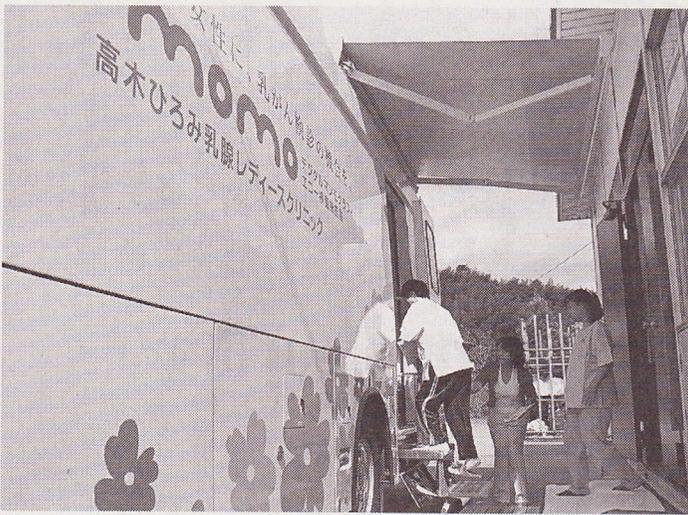
福岡県宮若市の障害者支援施設前に10月上旬、ピンク色の花模様をあしらった乳がん検診車「momomo」が止まった。検診着姿の入所者ら約30人が車内で受診。渡雅代施設長は「施設で受診できるのはありがたい」と話す。

リニックの高木博美院長(53)と、いこでマスク製造・販売のクロシード(同県飯塚市)の辻政和社長(57)。

2人は2010年末、乳がんの早期発見を啓発するピンクリボン運動を広めようと「momoproジェクト」を立ち上げ、受診率を上げるために検診車を購入。これまで企業や団体を対象に、年間40回程度の集団検診を実施してきた。費用は通常、1人当たり1万円程度かかる。

障害者施設での活動を始めるきっかけは今春、飯塚市の障害者自立支援施設への訪問検診だ。施設側から「1日で済んで人手もかからず、落ち着いて受診できた」との声が漏れた。それまで同施設はスタッフがリニック

員が受診するのに数日かかっていた。高木院長は「障害者施設こそ、訪問の集団検診が必要」と痛感。辻社長に相談し、10月からクロシードのマスク(5枚入りで525円)の収益の一部(20円)を活動資金に充てる仕組みを作った。ボランティアではなく、検診の大切さを啓発



判が21日、東京地裁であった。野沢晃一裁判官は「不正還付された金額

するとともに、継続的に活動していくためだ。検診車にはマンモグラフィ(乳房X線撮影装置)とエコー(超音波診断装置)の2つの最新検査機器を搭載。九州では非常に珍しいという。年間維持管理費は1000万円弱かかるが、乳がん発見のためには早期に精度の高い検査を受けることが重要で、「ダブルチェックで発見できる可能性が高まる」(高木院長)。

木院長は「まだまだ日本の女性は危機感が薄い。これからも積極的に受診の機会を広めたい」と、年間約1000人の受診を目指している。

「ほげんの窓口」前社長に地裁判決は到底軽視できない額だ」とした上で、「修正申告されて不正還付相当額が納付されている。被告には前科もなく反省の態度を示しており、直ちに実刑とすべき事案とまではいえない」と述べた。判決によると、今野被告は知人の会社員、石沢靖久被告(50)は公判中

消費税不正還付で有罪

「ほげんの窓口」前社長に地裁判決

架空の売り上げを計上する手口で消費税の不正還付を受けたなどとして、消費税法違反罪などに問われた保険の乗り合い代理店最大手「ほげんの窓口グループ」(東京・渋谷)の前社長、今野則夫被告(58)の判決公

懲役2年、執行猶予3年、罰金320万円(求刑懲役2年、罰金350万円)を言い渡した。同罪に問われた今野被告の資産管理会社「東京レジデンス」については、罰金220万円(求刑罰金250万円)とした。判決理由で野沢裁判官

乳がん検診車で障害者施設を訪れ、無償検診する活動が始まった(福岡県宮若市)